

第2次久留米市生物多様性地域戦略～くるめ生きものプラン～（案）に対する意見募集（パブリック・コメント）の結果について

令和4年1月4日（火）から令和4年2月3日（木）までの期間で第2次久留米市生物多様性地域戦略～くるめ生きものプラン～（案）に関する意見募集（パブリック・コメント）を実施し、その結果及び意見に対する回答がまとまりましたのでご報告します。

なお、意見の内容につきましては、原文を一部要約しております。

1 意見結果

方法	人数・団体	件数
電子申請	3個人	4
FAX	1個人	3
合計	4個人	7

2 意見の内訳

区分	件数
第1章 計画の基本的事項	
第2章 生きものプランの方針	1
第3章 生きものプランの推進と進行管理	3
計画全般に関すること	3
合計	7

3 意見の概要とそれに対する市の考え方

別紙のとおり

4 今後のスケジュール

令和4年3月 環境審議会、第2次生物多様性地域戦略の策定

別紙 意見の概要とそれに対する市の考え方

第2章

No	区分	ページ	意見の概要	意見への対応
1	市民 ①	3	<p>生物多様性では、微生物の存在が大きく、特に農業における土壌微生物においては、二酸化炭素を固定したり、窒素・リンを循環させたりする菌が存在している。</p> <p>国は、令和3年5月に「緑の食料システム戦略」を策定し、減農薬を勧めているが、持続可能な社会にするには農業のあり方が重要であるため、生物多様性地域戦略に菌の重要性も含めてほしい。</p>	<p>生物多様性には3つの多様性（生態系、種、遺伝子）があり、種の多様性では、細菌から動植物まで、多種多様な生きものが育まれていることを指します。</p> <p>このことは、別途作成する資料編に掲載する予定です。</p>

第3章

2	市民 ②	5	<p>第1章の「5. 課題に自然保護・保全活動団体は高齢化や担い手不足など」との記載があるが、市が把握している団体数は何団体か。</p> <p>環境ポータルサイトで紹介している団体数（目標値20団体）が適当なのか判断できないため、現状値を示すべきではないか。</p>	<p>従前のホームページには、8団体の紹介を掲載していましたが、ポータルサイトの立ち上げに伴い、改めて活動状況等の把握を行っていますので、現状値を示すことはできませんでした。</p> <p>目標値については、環境基本計画行動計画の数値目標を設定した際の数値を記載しており、原文のままとします。</p>
3	市民 ②	5	<p>外来生物対策を推進する上で、第3章の取組指標に外来生物に関する指標を設定したほうがいいのでは。</p>	<p>外来生物の指標に関しては、分布域や推定個体数、生息密度、生育面積などの実態把握が難しく、数値目標が困難なため、原文のままとします。</p> <p>なお、環境改変等に影響を受けやすい種や増加することにより生態系に影響を与える種を指標種として設定しています。</p> <p>その指標種の中には、特定外来生物の12種も設定し、今後モニタリング調査を実施していく予定をされており、その指標種については、資料編で明示する予定です。</p>
4	市民 ②	6	<p>「ライフ・ビジネススタイルの転換」とは具体的にどのような方向への転換なのか。</p>	<p>2章の「4. 施策推進の視点」の中に記載していますが、生物多様性に配慮した消費行動や暮らしをしていくことが重要だと考えます。</p> <p>また、省資源・省エネ、環境負荷の低減などの行動をすることが、結果として生物多様性に配慮したライフ・ビジネススタイルとも言えます。</p> <p>啓発内容を中心とした資料編を作成する予定であり、その中で環境配慮指針や将来どのような行動をしているのかなど示していきます。</p>

全体

No	区分	ページ	意見の概要	意見への対応
5	市民 ③	—	多様な生息場を提供する筑後川において、生物多様性のシンボルとなる種を設定することにより、住民に興味を持たせることが効果的である。絶滅危惧種である「ヒナモロコ」を対象に、環境 DNA 技術を活用しながら生息調査を行い、分布マップを作成し、筑後川の生物多様性の象徴とすること。	ヒナモロコについては、発見されて以降、市を含め様々な団体等が調査を実施していますが、自然生息が確認できておらず、指標種からも外しています。 そのため、シンボルとしての設定は難しいと考えています。 市では、他の動植物も含めた調査を続けていきますが、今後を実施する調査時には、魚類や哺乳類、甲殻類、鳥類などを含め環境 DNA 分析を活用し実施するよう検討します。 なお、分布マップ等の作成については、鑑賞用や販売目的に乱獲される懸念もあるため、予定はしていません。
6	市民 ③	—	レッドリストに記載の、学名「kurume」を持つ「ニッポンバラタナゴ」の分布調査を行うとともに、遺伝子検査による「タイリクバラタナゴ」との交配状況を把握し、外来種の危険性の啓発と生物多様性の象徴とすること。	今までの調査で、ある一定の分布は把握していますが、交雑しているかどうかは不明であり、今後の調査時には、DNA 分析も検討します。 外来種の危険性等については、現在も啓発を行っていますが、国内由来の外来種も含め、引き続き啓発に努めます。
7	市民 ④	—	急がないといけない問題なので、生物多様性地域戦略を、わかりやすく、知る機会となる冊子になると良いかと思う。 また、子ども達にも伝えやすいよう、わかりにくい専門用語は用語集による解説をするなどして欲しい。	生物多様性地域戦略の啓発内容を中心とした冊子等の作成を検討します。用語集については資料編に掲載致します。 また、小学校高学年向けにも、別途作成する予定であり、子ども達への環境学習の推進にも努めます。